溢れる家具から
背伸びする暮らし

この家には、あなたが思い浮かべる家具の姿から、少しだけ“溢れた”家具を置かせていただきました。

家具の拡張に合わせて変化する空間は、きっとあなたが想像するよりも、多様で豊かな場所になっているのではないでしょうか。

この住宅は、家具という普遍的な基準から拡張された、暮らしの多様さと豪華さが少し溢れる家なのです。

01 背景　「豪華さ」の定義と現代における家具の役割
基準からの拡張による豪華さと住宅の行動を型取る家具の着目

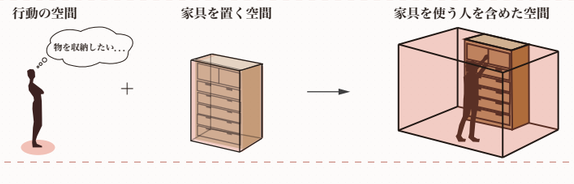
″豪華さ″とは「少しの背伸び」

私たちは、皆、それぞれの基準で「普通の暮らし」をしている。普通とは、各々の暮らしの基準であり、その暮らしの連続が日常である。
私たちはその日常から「少しの背伸び」をした時、豪華さを感じるのではないだろうか。

【豪華さを感じる「少しの背伸び」】

家具がかたどる空間

家具とは、人の行動を形として具現化したものである。
食事をするためのテーブル、休息するための椅子やベッドなど、家具は行為そのものと等しい意味を持つ。住宅において家具は、部屋に置くだけの存在ではなく、人が使うための空間も型取ることで配置されている。

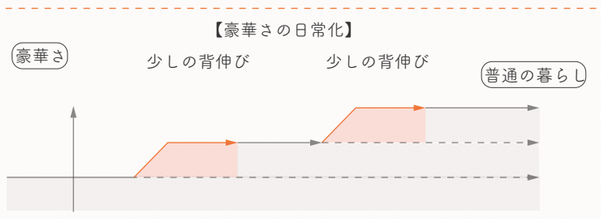


02 問題提起　更新される豪華さと間取りに家具を納める暮らし
不変の豪華さと家具ファーストの暮らし方

現代の住宅

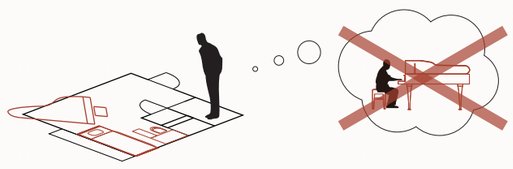
豪華な暮らしは日常化すると、それは「普通」となり、さらに新たな豪華さを求めるようになる。その時の基準の暮らしからの背伸びが豪華さにつながるのなら、常に豪華さは変化し続ける存在なのではないだろうか。

【豪華さの日常化】



現代の住宅

現代の住宅は、まず空間の大きさや形が決められ、そこに収まる家具が選ばれていく。
しかし、家具の取捨選択は行動の優先順位を決め、本来の「したいこと」を削ぎ落としてしまっているのではないだろうか。

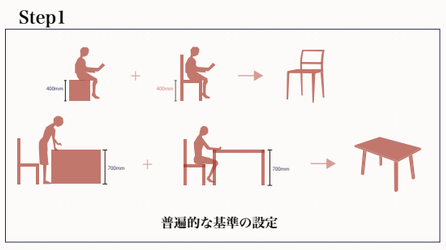


03 提案　「家具」という基準の拡張に呼応する空間ダイアグラム
「少しの背伸びをした家具」による家具ファーストの設計手法

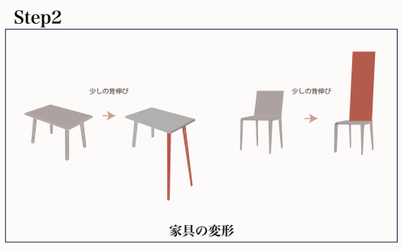
「家具」という普遍の基準による「少しの背伸び」

私たちの暮らしの中にある、普遍的な基準とは「家具」であると考える。家具は、座る、食べる、得るといった行動に対し、適切な寸法と適切な形をしている。椅子には400㎜の高さと座面、背もたれがあり、机には700㎜の高さと面と脚がついている。身体のスケールや行動に合わせて合理的な形状を保ってきた「家具」は、人々にとって平等な基準であると捉え、家具に対し「少しの背伸び」である基準からの拡張を与える操作を行う。

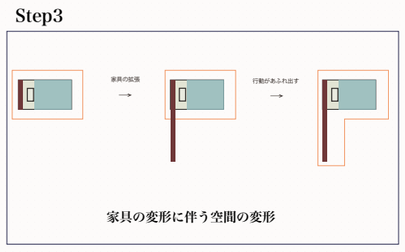
Step1



Step2

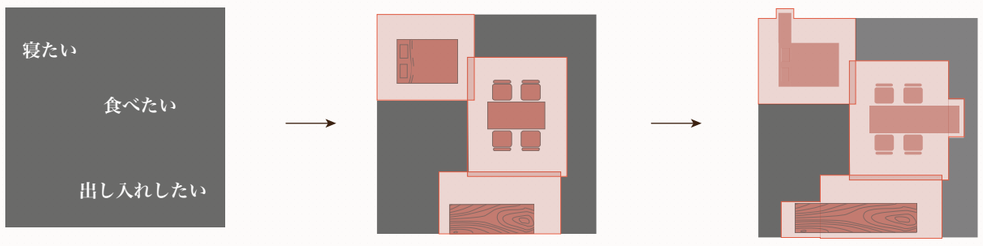


Step3



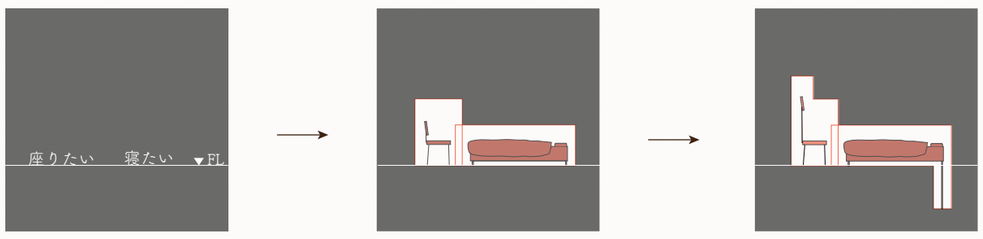
「家具」を中心とした平面ダイアグラム

クライアントに欲しい家具、したい行動を聞き、家具のみに着目したゾーニングを行う。
家具を拡張することで、必要な空間が拡張されていき、基準からの背伸びをした空間が生まれる。



「家具」を中心とした断面ダイアグラム

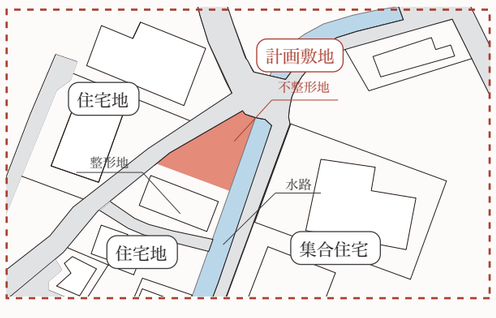
家具の拡張を行う際に、断面方向の拡張操作も行うことで、垂直方向の空間を拡張する。
拡張された家具に対し、受動的に必要な空間が生まれる。



04 敷地　整形な空間の普及により取り残された不整形地
家具から空間を設計することの意義

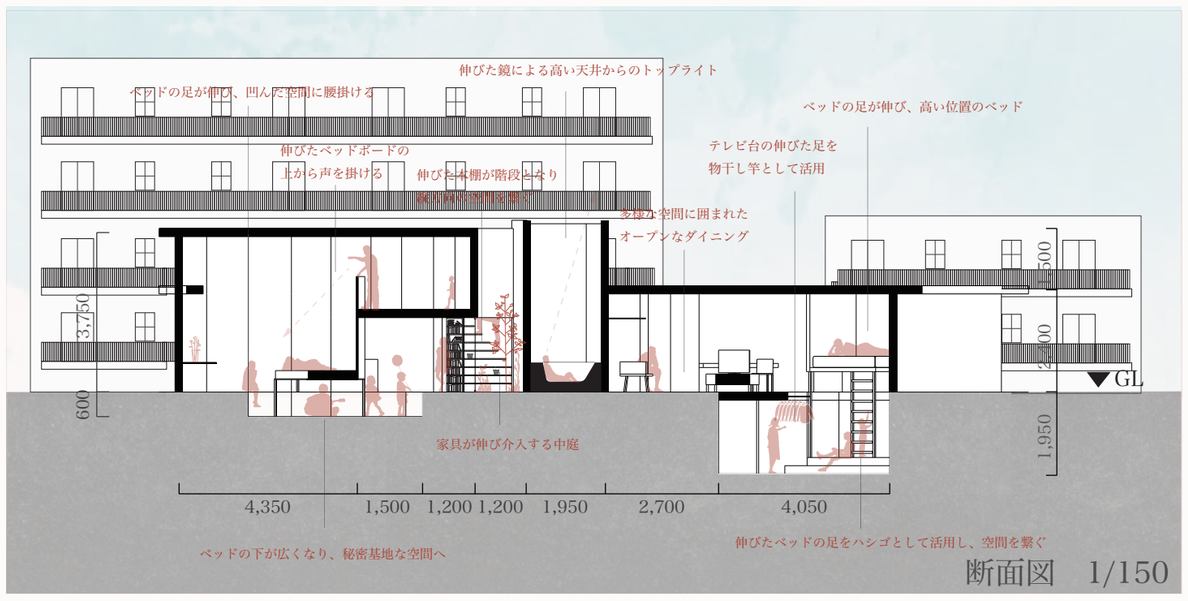
家具から空間を設計することで不整形地に対応する

敷地は、東広島市西条町の一角。
西条駅の近くに位置し周辺は住宅が密集している中で、
不整形地であるこの土地は、取り残されている。
これは、整形な間取りに暮らしを当てはめる現代の住宅感において、取捨選択により省かれたからではないだろうか。
本計画は、敷地の形状に暮らしを従わせるのではなく、
家具から暮らしを拡張する設計である。
よって、現代の設計基準に取り残されてきたこの不整形地において、
新たな住宅の可能性を示すことができると考え、本敷地を選定した。



05 平面図　家具が収め、拡張することで溢れる平面計画
不整形な敷地に家具とともに広がる暮らし

背伸びした家具に合わせて広がる空間の利用方法

家具を利用するための空間が重なるように、プランニングを行う。そこに家具を背伸びさせることで、不整形地に家具とともに空間が溢れていく。
室内だけでなく、屋外の周辺環境にも家具が溢れることで、道を歩く人がふと休めるような空間を広げ、家具からまちへ溢れ、繋いでいく。

06 断面図　家具の拡張による断面的に溢れる空間
立体的な関係性を繋ぐ背伸びする家具